

令和5年度秋期 データベーススペシャリスト試験合格発表 分析コメント

(株) アイテック IT人材教育研究部 2023,12,22

10月8日（日）に行われた令和5年度秋期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系5試験の合格発表がありました。IPAから発表された得点分布など統計データの分析結果をもとにして、データベーススペシャリスト試験の分析コメントをお知らせします。

■データベーススペシャリスト試験（DB）

〔令和5年度秋期 データベーススペシャリスト試験 統計情報〕

応募者	13,121 人
受験者	8,980 人
合格者	1,664 人
合格率	18.5%

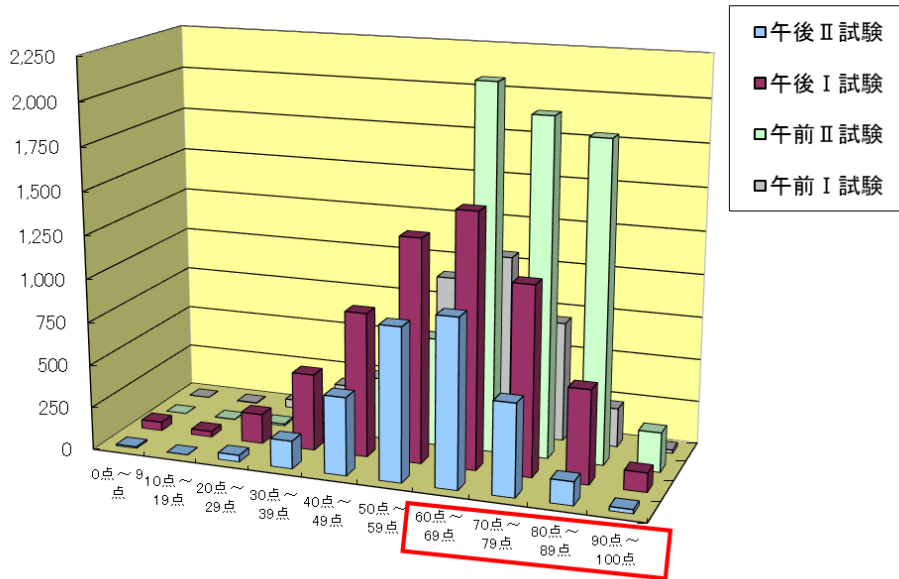
令和5年度秋期実施のデータベーススペシャリスト試験の合格率は18.5%で、前回の17.6%から少し上がりました。なお、平成21年から始まった現在の試験制度では最も高い合格率となりました。次に発表された得点分布の分析とグラフを示します。

〔令和5年度秋期 データベーススペシャリスト試験 スコア分布〕

得点	午前Ⅰ試験	午前Ⅱ試験	午後Ⅰ試験	午後Ⅱ試験	合格者
0点～9点	1	0	51	9	
10点～19点	3	2	33	1	
20点～29点	50	11	174	39	
30点～39点	179	46	447	162	
40点～49点	479	359	839	452	
50点～59点	905	631	1,296	885	
60点～69点	1,058	2,117	1,470	971	
70点～79点	700	1,950	1,094	533	
80点～89点	228	1,848	543	136	
90点～100点	20	230	112	24	
計	3,623	7,194	6,059	3,212	1,664
対前試験比率		198.6%	84.2%	53.0%	51.8%
午前Ⅰ免除者概算	5,357	59.7%			

合格者数	1,664	採点者数の割合	合格者数との差
午前Ⅰ 60点以上合計	2,006	55.4%	342
午前Ⅱ 60点以上合計	6,145	85.4%	4,481
午後Ⅰ 60点以上合計	3,219	53.1%	1,555
午後Ⅱ 60点以上合計	1,664	51.8%	0

令和5年度 データベーススペシャリスト試験 得点分布



午前Ⅰ試験免除対象の人も増える傾向がありますが、得点分布を分析してみると、今回午前Ⅰ試験の免除者は概算で5,357人(59.7%)おり、受験者の6割近い人が午前Ⅱからの受験となっています。この午前Ⅰ試験で基準点60点以上取ることができた人は2,006人(受験者の55.4%)でした。

午前Ⅱで基準点以上の方は6,145人(受験者の85.4%)で、前回やや平易な問題が多かった試験の91.9%からは減少しています。

午後Ⅰで基準点(60点)以上取れた人は53.1%で、前回の52.6%とほぼ同じでした。また、午後Ⅱで基準点(60点)以上取れた人は51.8%で、こちらは前回の46.5%から増加しました。

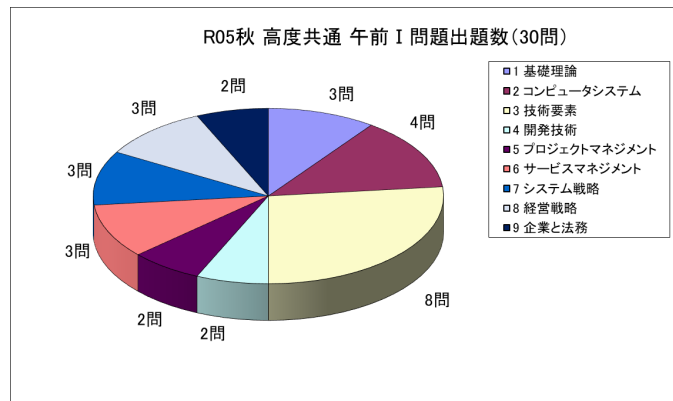
■ 令和5年度秋期 データベーススペシャリスト試験の出題内容について

(午前Ⅰ試験(高度試験の共通知識問題))

高度試験で共通して出される午前Ⅰ試験の30問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験(AP)の午前試験80問の中から選ばれていて、テクノロジー系17問(57%)、マネジメント系5問(17%)、ストラテジ系8問(26%)という出題比率です。

午前Ⅰ試験には免除制度がありますが、高度試験の約4~5割の人が午前Ⅰ試験から受験しています。この中で60点以上の得点で午前Ⅱ試験の採点に進む人は5~6割で、出題範囲が広いため試験問題を難しく感じる人が結構多いといえます。問題が難しいときには4割程度の人しか通過できないときもあったので、最初の午前Ⅰ試験でつまづかないように、早めに試験対策の学習を始め、確実に知識をつけていく必要があります。

- ・今回の午前Ⅰ試験の内容は、約6割が過去問題でしたが、定番問題が減り、少し難しい問題が多かったといえます。
- ・重点的に出題されるセキュリティ分野の出題数は前回と同じ4問で、最も多い出題数です。
- ・新傾向問題は5問で前回の3問から増えています。

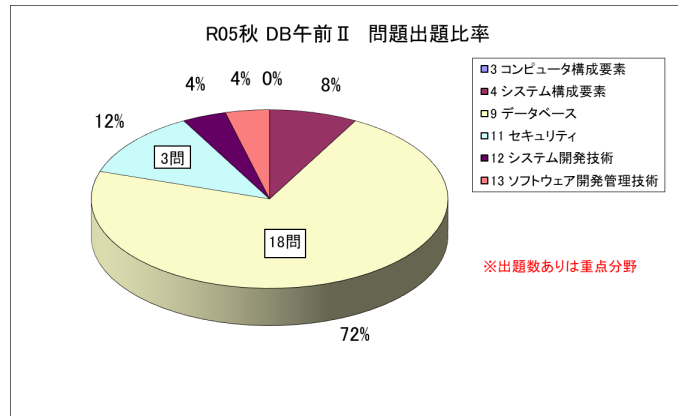


〔午前Ⅱ試験（専門知識問題）〕

午前Ⅱ試験はこれまで繰り返し出題される定番問題が多い傾向がありましたが、今回も新傾向問題は3問で、前回の4問とほぼ同じ傾向といえます。データベースの専門知識の出題数は18問で（前回と同じ）、過去問題も約7割で例年と同じ傾向でした。レベル4の内容まで出題することになったセキュリティの問題は前回と同じ3問の出題で同じ傾向でした。

過去のデータベーススペシャリスト試験問題の出題は10問ありました。これまで過去に出題された問題は年度をまんべんなく選ばれる傾向がありました。今回も同様の傾向といえますが、令和3年度の問題は3問あり、他の年度の問題よりも多く選ばれていました。

今回の試験で出題されたデータベース専門分野の問題は、これまでよく出題されていたビッグデータ関連がなく（前回4問）、正規化が2問、SQLが2問、トランザクション処理関連が4問（前回なし）というように、出題内容に変化がありました。



〔午後Ⅰ試験〕

午後Ⅰ問題の出題内容は、問1と問2が概念データモデリング、問3がSQL設計・性能・運用でした。問1、問2の概念データモデリングは前回に続いての出題です（データベース設計の問題としては28年連続出題）。なお、問1で正規化理論が設問の一部として出題され（令和3年以来）、問3のSQLには集約関数を指定したウィンドウ関数が出題されました。問3がやや難の問題でしたが、全体としては、前回と同じ程度の難易度でした。

〔午後Ⅱ試験〕

午後Ⅱ問題の出題内容は、問1がデータベース実装・運用、問2が概念データモデリングでした。問1は、前回試験と同じように、データベース設計の要素が強い問題でした。データベーススペシャリストの午後Ⅱ試験は、問題の分量が非常に多く内容を読み取るのが大変ですが、今回の問1は例年どおりの分量で多く、問2はの問題の分量と設問数が減っています。難易度は、問1、問2ともに前回並みといえるものでした。